

教育センター・ニュース

Education Center, Tottori University

NEWSLETTER No.10

第 10 号 2013 年 2 月 1 日発行

目 次

・教育開発部門 (SPOD参加報告/鳥取大学FD講演会/全学FD研修会)	1~3
・外国語部門 (各学部との意見交換会に参加/学長経費による英語プロジェクト始動/ 1・2年生に対する TOEIC 試験を実施/銘傳大学での英語研修プログラムが始動)	3~4
・健康スポーツ部門 (学生への授業アンケート結果の分析・検討/スキー実習安全講習会の実施/ トレーニングルームの使用説明会開催/キッズリーダー資格講習会(サッカー)の開催/ 附属学校園における教育支援活動)	4~5
・教職教育部門 (教員免許更新講習の開催/鳥取市小教研養護部会の開催/教職課程運営実務研修会の実施/ 「教職ポートフォリオ」の運営/学生教育ボランティア説明会/「教職実践演習」の授業開 発プロジェクト/教職相談と採用試験に向けての面接指導等/教育臨床相談/地域貢献/ その他)	5
・関係教員名簿	

教育開発部門の活動

●SPOD 参加報告

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク =SPOD(**S**hikoku **P**rofessional and **O**rganizational **D**evelopment Network in Higher Education) の本年度フォーラムに参加して、5つの講座を受講しました。それらの概要を報告します。

(1) 8月23日の第1時限(9:00~10:30)・FD・共通教育4号館4-404

「授業に活かせる理解と記憶の教育学」がテーマで、講師は愛媛大学の佐藤浩章氏です。「理解した事柄をいかに構造化して長期記憶として定着させるか」が要点でした。そのためには、理解における、<既有知との関連づけ>、<精緻化>、<注意喚起>という3つのメカニズムと、記憶における、<繰り返し>、<意味づけ>、<構造化>という3つのメカニズムをうまく機能させることが重要である、ということでした。

(2) 同日第2時限(11:00~13:00)・

FD/SD 共通・共通教育5号館5-302/303

講師は高知大学・塩崎俊彦氏ほか2名の、「テーマ別ランチョンセミナー(昼食をとりながら

の会): 学生の思いを聞き出す・引き出す」のセッションに参加しました。教員3対学生3のグループを単位として、教員と学生がペアになって教室外で互いにインタビューし合い、その結果をグループに持ち帰って発表し合うというものです。立場の違う初対面の者同士がいかにしてよく相手の話を聴き出せるか、の興味深いワークでした。

(3) 同日第3時限(13:30~15:00)・FD・共通教育4号館4-302

テーマは「大人数講義法の基本」で、講師は愛媛大学の小林直人氏です。受講者が100名を越すような大人数講義での板書・プリント・コミュニケーションなどの基本的テクニックを、レクチャーとワークを交互に織り交ぜて受講者に伝授するものでした。学生管理については早い時期に宣言すること(例:「途中退席や遅刻は原則認めない!」)が肝心であることを改めて確認できました。

(4) 同日第4時限(15:30~17:50)・FD/SD 共通・共通講義棟6階創成学習スタジオ

このセッションは、「アクティブ・ラーニングを通して、いかに学生に深い学びをもたらすか」というテーマのシンポジウムであり、3人のパネ

ラー（京都大学・溝上慎一氏、帝京大学・土持ゲリー法一氏、高知工科大学・福田直史氏）がそれぞれ、ディープ・ラーニングのための授業展開、Student Engagement（学生関与）、「人が育つ」環境整備という観点から論じました。

（5）8月24日第1時限（9:00～10:30）・

FD・共通教育6号館6-201

テーマは「小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン」で、講師は高知大学の俣野秀典氏です。表題の通り、受講者をペアにして、アイスブレイキングでペア同士の聞き合い・話し合いにはじまり、協同教育・協同学習の定義、技法例紹介など、レクチャーとワークを織り交ぜて講座が進められました。学生の参加型授業実践の方法の1つとしてグループ学習（俣野氏の「協同学習」）は有効ですが、俣野氏の教材資料に出ていた参考書「ジェイコブズ他著、先生のためのアイデアブック——協同学習の基本原則とテクニック」の発行者が「日本協同教育学会」であることに驚きました。つまり、グループ学習（協同学習）に関する学会がすでに日本に存在するのです。このことは、当該分野の研究・実践が我が国でも相当広範囲に広まっている証拠だと思われます。

●鳥取大学FD講演会

平成24年12月14日（金）15:00～16:30に、会場を工学部大学院棟大講義室に設けて、全学教職員対象の「鳥取大学FD講演会」を開催しました。講師には、熊本大学大学院社会文化研究科の鈴木克明教授をお招きしました。参加者は約80名でした。以下、概要を報告します。

本名教育担当理事の開会挨拶の後、鈴木先生の講演に先立って、学内での最近のFD関連事業を紹介しました。最初に、工学部ものづくり教育実践センターの大崎理乃特任教員（右の写真）が同センターでの「カリキュラム設計・グローバル実践」型授業の取り組みを紹介しました。ついで、教育センター「授業改善推進室」室長の武田修志教授が、ここ2年あまりの「録画で授業改善」の活動を報告しました。

最後にメインの講演として、鈴木克明教授が「大学における授業デザインと評価—シラバスの書き方から授業改善まで—」という題目でお話をされました。それによれば、『授業システ

ム』は学問的な見地から研究されており、実践的な授業改善にも、そういった学問的成果を上手に活用するのが効果的である」ということです。代表的授業システムの理論にARCSというモデルがあります。Aは「Attention 注意：面白そうだ」、Rは「Relevance 関連性：やりがいがありそうだ」、Cは「Confidence 自身：やればできそうだ」、Sは「Satisfaction 満足感：やってよかった」です。これらの観点を確保することで学習意欲を高めようとする戦略です。また、学習者の学習プロセスを助ける方法として、ガニエ氏の9項目授業設計が紹介されました。それによれば、「学習への準備にはじまり、新しい情報の提供、それを自分のものとする練習実践、反省とまとめ、という一連の流れで学習過程を設計する。」ことが肝要です。昨今「教授から学習へ」という教育理論の「パラダイム・シフト」が叫ばれていますが、本来、授業システム論は学習者がいかに効果的に学べるかを探求する学習者目線からの研究なのだ、ということを確認できました。

なお、本講演の詳しい内容はFD活動報告書「わかりやすい講義をめざして（15）」（2013年3月発行予定）に掲載します。ぜひ、こちらの掲載記事もお読みください。



●全学FD研修会

平成24年9月13日（木）10:00～17:20に、共通教育棟第1会議室において、全学FD研修会を実施しました。今回のテーマは、「90分間学生は座ったままでいいのか？—講義形式の授業の改善に向けて」とし、模擬授業と報告を通して、参加者が「学生の学習支援について検討し今後の授業改善のきっかけとする」ことを目的としました。参加者は研修者・講師・スタッフ

合わせて28名でした。今回は、初めて、研修者と講師などを混ぜた5つの班を作り、模擬授業を受講してワークショップを行うという形式を採りました。以下、概要を報告します。

午前中(10:30~12:15)は、「いま、なぜ、ビジネススクール型授業なのか?」と題して、イノベーション科学センターの大田住吉准教授に、通常の講義形式ではなく調べて発表する参加型の模擬授業を実際に展開していただきました。後半に、各班でこのような形式の授業について、そのメリット・デメリットを議論して発表しました。

午後の部の最初の時間(13:30~15:10)には、「学生同士の学びを基軸にした授業づくり」と題して、大学教育支援機構教育センター教育相談室の小椋孝昭特任教員に、模擬授業を実施していただきました。教材を用いて作業と討論を行い、各班が討議内容を発表しました。

午後の後半(15:45~17:15)には、「全学教育としてのものづくり型PBL(Project/Problem Based Learning)」という題で、工学部ものづくり教育実践センターの大崎理乃特任教員に、「ものづくり」の発想から学生をアクティヴ・ラーニング(Active Learning)に導く、講義実践の報告をしていただきました。

研修者のアンケートには概ね好評の意見が寄せられましたが、不満な点や不十分な点の指摘を参考にして、来年度はさらに充実した研修会を実施してまいります。



外国語部門の活動

●各学部との意見交換会に参加

平成24年度の教育担当理事と各学部との意見交換会が6月29日の医学部を皮切りに、地域学部(7月4日)、工学部(7月5日)、農学部(7

月10日)の順で開催され、外国語部門からも篠津教授と福安教授が参加して外国語教育の現状について説明しました。

いずれの学部も英語教育への期待が高く、特に、昨年末に行われたTOEICの試験結果について質問が集中しました。また、「グローバル人材育成推進事業」に応募中ということもあり、教育担当理事から示された今後の英語教育のビジョンに対して、各学部長から多くの質問・意見が寄せられました。

●学長経費による英語プロジェクト始動

平成23年度に引き続き、今年度も学長経費(教育・研究改善推進費)によるプロジェクト「英語上級者に対する英語教育の実質化を目指して」が採択され、7月から本格的にスタートしました。このプロジェクトは、今年度開講の『英語上級』の4クラスを中心に、TOEIC 500点以上の上級者のさらなるレベルアップを目指しており、「英語低学力者の支援」という従来の方針から大きく方向転換しています。前期開講の「英語上級」の2クラスには、4年生・3年生も含めてそれぞれ10名程度が受講しており、その成果が大いに期待されるところです。

●1・2年生に対するTOEIC試験を実施

2年生全員を対象としたTOEIC試験が11月17日に行われました。この試験結果は総合英語IIの成績判定に利用されることになっており、学生にとっても真剣に取り組むことが求められています。

12月15日には1年生全員を対象に第2回目のTOEIC試験が行われました。1年生にとっては5月以降の学習成果が試されることとなりますが、300点未満であれば、「実践英語B」の単位が保留となるため、英語に自信のない学生にとってはスコアが気になるところです。また、この結果は2年次の総合英語I、IIのクラス分けデータとしても利用されることになっています。

●銘傳大学での英語研修プログラムが始動

9月末に「グローバル人材育成推進事業」の採択が決定し、10月から本格的に活動が開始されました。これに伴い、本名センター長から外国語部門(特に英語教員)に、「プロジェクトに積極的に関与してほしい」との要請があり、①プロジェクトに対応した英語カリキュラムの開発、

②台湾・銘傳大学での短期語学研修のカリキュラム検討、といった具体的テーマが示されました。

②については、10月2日に来学された銘傳大学の羅暁勤助教授と銘傳大学出張に関して事前の打ち合わせを行いました。第1次訪問団(10月16日～18日)では筏津教授・小林准教授が学生の宿舎、英語カリキュラムについて、また第2次訪問団(11月12日～14日)では和田准教授が「語学研修プログラム」の詳細について担当者と意見交換を行い、最終案がほぼ纏まりました。

これに基づき、11月下旬から派遣学生の募集を開始しましたが、予想を上回る60名近い学生が応募し、書類審査(成績)・面接等を経て、20名の学生が選抜されました。彼らは2月下旬から始まる3週間の英語研修プログラムに参加しますが、来年夏からの本格実施に向けてその成果が期待されています。

健康スポーツ部門の活動

●学生への授業アンケート結果の分析・検討

平成23年度に実施した「健康スポーツ科学実技に関する学生へのアンケート」の集計結果を分析した結果、授業に関する感想は約90%の学生が「楽しかった」と回答し、約88%の学生が必修クラスの授業に「満足している」と回答するなど学生の評価が高いことがわかりました。

学生が開講を希望する種目については、調査結果を教材としての妥当性、人的・物的資源の調達可能性などの観点から検討し、平成25年度に「バドミントン」を1コマ増設しました。

さらに、新設種目として「野外活動」を1コマ開設することにしました。

●スキー実習安全講習会の実施

24名の学生で実施予定(2月18日～21日)のスキー実習の参加者を対象とした「スキー実習安全講習会」を1月9日に実施しました。

●トレーニングルームの使用説明会開催

平成24年度第3回目、第4回目の「トレーニングルーム使用説明会」を10月25日と10月31日に実施しました。

●キッズリーダー資格講習会(サッカー)の開催

「キッズスポーツファシリテーション」(集中

講義)の過去の受講生を主な対象者として、鳥取大学で「キッズリーダー講習会」(12月12日)を鳥取県サッカー協会が開催し、22名の学生が受講しました。



● 附属学校園における教育支援活動

①キッズスポーツ アンド スタディサポート

附属小学校2年生・3年生の児童を対象とした「秋期キッズスポーツ アンド スタディサポート」を24名の参加者で10月17日～12月5日に実施しました。

プログラムの実施前後で、児童のステップ動作の平均タイムに有意な向上が認められました。



②陸上教室

附属小学校4～6年生を対象とした「陸上教室」を、27名の参加者で5月9日～9月19日に実施しました。本年は晴天の日が多く十分に活動できましたので、走・投・跳の各種目で記録の向上、フォームの改善が認められました。

なお、最終回に実施した調査では、回答者全員が「楽しかった」「来年も参加したい」と回答しています。



教職教育部門の活動

●教員免許更新講習の開講

7月7日(土)～12月1日(土)の期間に、必修講座4講座、選択講座59講座を開催し、無事に終了しました。

●鳥取市小教研養護部会の開催

8月1日(水)、8月8日(水)、9月24日(月)に西ブロック研修会(質問紙調査分析に関する講座)を開催しました。

●教職課程運営実務研修会の実施

12月6日(木)、教育支援課教職教育係・各学部教務係教員免許関係担当者を対象に、教育職員免許状取得希望登録制の事務確認を行いました。(担当:柿内)

●「教職ポートフォリオ」の運営

5月16日(水)～31日(木)にチェックを受けなかった学生に対して、6月5日(火)～14日(木)、さらに、未チェックの工学部学生には10月10日(水)～18日(木)に追加チェックし、学生のフォローを行いました。また、11月27日(木)、教職課程登録制と介護等体験ほか教員免許状取得に関わる説明等を含めて、教職ポートフォリオのガイダンス(全学・主に1年次生対象)を実施しました。(担当:柿内)

●学生教育ボランティア説明会

10月5日(金)に開催しました。(担当:大谷)

●「教職実践演習」の授業開発プロジェクト

学長経費によるプロジェクトのワーキングを、7月31日(火)、10月25日(木)、11月8日(木)の3回開催しました。メンバーは、教職教育部門教員(部門長含む)と小笠原拓・山根俊喜(地域学部地域教育学科)の両先生です。

(プロジェクト代表:柿内)

●教職相談と採用試験に向けての面接指導等

4月から9月にかけて、教員免許状取得希望学生を対象に、教職の適性に関する教育相談、教員採用試験に向けて志願書作成、模擬授業、集団・個別面接・場面授業についての指導を行いました。(担当:小椋)

●教育臨床相談

(1) 個別療育---発達障害のある小学生毎月1～2名に対して、スーパーバイズ、遊戯療法。

(2) 外来相談26件(不登校、親子関係、バーンアウト、気分障害、いじめ、発達障害、非行、発達遅滞、就学相談、思春期対応)

(3) 週2回ペースで、事例検討会への参加、啓発活動等(「発達保障」学習会チューター、八頭町保育所巡回相談、県立緑風高校事例検討会アドバイザー、県立智頭農林高校授業参観・検討会、看護協会実習担当者研修、臨床発達心理士筆記試験作問検討会議、日南町教育委員会主催講演会など)

(4) 附属学校への協力(自尊心の低い生徒への対応についてスーパーバイズ、直接面談、ピアサポート活動助言、保護者カウンセリング、性格検査の実施など)(担当:小林(勝))

●地域貢献

大学開放事業「あそびのまなび舎」として、7月7日(土)に「ワークショップ 俳句をつくろう1」、9月1日(土)に「紙を漉いて俳句をつくろう」、11月10日(土)に「自分の筆で、大きく俳句を書こう」を実施しました。(担当:大谷)

●その他

『教育研究論集』第3号の編集を進めています。(2013年2月末発行予定)

教育センター関係教員（○は部門長、*は兼務教員）

センター長 : 本名俊正

教育開発部門 : ○田畑博敏、吉野 公*、橋本隆司、後藤和雄、井上順子、永松利文、桐山 聰、武田元有

外国語部門 : ○筏津成一、福安勝則、武田修志、サージャント・トレバー、松本雅弘、和田綾子、小林昌博、
リン・シャーリー

健康スポーツ部門 : ○福元和行、上野耕平

教職教育部門 : ○塩野谷斉*、小林勝年、柿内真紀、大谷直史

※ 外国語部門、健康スポーツ部門、学生生活支援部門、附属学校連携部門の兼務教員は割愛しています。



編集・発行 鳥取大学教育センター広報誌編集委員会 電 話 : 0857- 31- 5795 (内線2485)

E-mail : st-soumu@adm.tottori-u.ac.jp